

第7回 建設候補地選定専門部会 会議録

開催日時：2012年6月14日（金）16時～18時40分

開催場所：町田市役所 町田リサイクル文化センター 研修室

出席委員：（敬称略）

松波淳也、稲木健志、高木康夫、富岡秀行、大谷公二、百武ひろ子、佐藤臣一
傍聴者：6名

《次第》

開会

1. 第6回建設候補地選定専門部会議事要旨と今後の進め方
2. 建設候補地選定 二次選定結果
3. 建設候補地選定 三次選定の評価項目の内容と評価の例
4. 建設候補地選定 三次選定の評価項目の配点の検討

＜配布資料＞

資料1：第6回建設候補地選定専門部会議事要旨

資料2：建設候補地選定 二次選定結果

資料3：建設候補地選定 三次選定の評価項目の内容

資料4：建設候補地選定 三次選定の評価の例

第7回 建設候補地選定専門部会議事録

1. 開会

(事務局)

これまで副部会長を務められていた粕谷委員が、自治町内会長の任期満了に伴い退任されたため、本部会の委員を退任される。後任は佐藤臣一氏が務められる。

(松波部会長)

副部会長の退任に伴い、現委員の中から副部会長を選出する。委員の中からの立候補してもらう。または、事務局より推薦者をあげてもらう。

(松波部会長)

立候補者、推薦者がいないので、次回の部会で決める。

(事務局)

7月下旬に開催予定の市民との意見交換会に向け、Q&AのQ(質問)の部分を各委員に考えていただく。回答期限は、6月25日までとする。

2. 第6回建設候補地選定専門部会議事要旨と今後の進め方

(松波部会長)

質問、意見がないので次の議題に進む。

3. 建設候補地選定 二次選定結果

(事務局)

前回提示した資料に、民有地に関する基礎情報(面積や所在地等)を追加した。

4. 建設候補地選定 三次選定の評価項目の内容と評価の例

〔開発行為や建築行為に対する規制について〕

(百武委員)

それぞれの項目の満点の点数が違うのはおかしいのではないか。まずは各評価項目の重み付けをしてから、配点を決めていくべきではないのか。開発行為に対する規制に関して、用途規制の有無で点数付けされていたが、今日視察した候補地の中でも地区計画の対象になっているものがあった。地区計画をはじめ規制を外すのが容易な箇所と困難な箇所があると思われるので、その点も考慮していただきたい。

(事務局)

都市計画を決めた背景、理由等を考えることが重要だと考えている。また、各候補地を選定した理由等も評価の内容として考慮するべきではないかと考えている。

(事務局)

都市計画等の規制の有無によって、点数を付けているだけでは重み付けにならない可能性がある。このように評価の仕方はこれだけではないということがあれば挙げていただきたい。

(松波部会長)

用途規制の有無でなく、用途規制以外の内容も評価に入れるべきということではないか。また、資料3に示されている点数はあくまでたたき台である。今は各評価項目の配点についての議論でなく、評価項目の内容について議論したい。

(事務局)

地区計画に関しては、町田市の開発許可を担当する部局にヒアリングを行い、その結果「規制は無い」という回答を受けてこの評価項目をお示ししている。再度確認はさせていただく。

【施設の分散化について】

(百武委員)

分散化の評価手法として、熱回収施設からの距離を測るとあるが、資源化施設同士の分散化とは意味が違うのではないかと。重要な検討事項なので資源化施設同士の距離も考慮すべきではないかと。

(松波部会長)

施設の分散化の評価項目について、資源ごみ処理施設を熱回収施設から分散させる評価項目があったが、百武委員の意見は資源ごみ処理施設同士の距離も評価項目に入れるべきということか。

(事務局)

資源ごみ処理施設は、2つの施設をエリアで分けることになっており基本的には離れると考えている。熱回収施設から離れていれば、熱回収施設1つ、資源ごみ処理施設2つの計3つの施設が離れるという考え方である。必ずしも資源ごみ処理施設同士が近づく可能性がないわけではない。まずは、熱回収施設から資源ごみ処理施設が離れることによって、施設の分散化を図るという考え方である。

(百武委員)

整備基本計画専門部会では、施設の分散化は、熱回収施設から離れることを基準に考えているのか。隣接したエリア同士で、2つの施設ができたらどうなるのか。

(事務局)

2つの施設が近づく可能性もあるため、その際は再度検討しなければならないと考えている。現状では、資源ごみ処理施設は離れると考えている。

(松波部会長)

熱回収施設と資源ごみ処理施設の分散化(距離)、資源ごみ処理施設同士の分散化(距離)に関する評価項目を新たに設けるということはどうか。

(稲木委員)

そもそも、熱回収施設の場所が決まっていないのに、各施設の距離(分散化)について意見の出しようがないのではないかと。

(松波部会長)

施設の分散化という項目は資源ごみ処理施設の項目であるため、実際に評価する際には熱回収施設の場所は決まっている。施設の分散化という項目を立て、資源ごみ処理施設から熱回収施設までの距離と、資源ごみ処理施設同士の距離を分けて評価するというところでどうか。

(大谷委員)

施設が分散していないと市民の同意は得られないと思う。本来はごみを多く出す地域に施設を造るべきで、市役所がある旧町田町には施設はなく、鶴川等を施設の候補地とすることはおかしいのではないかと。

(稲木委員)

大谷委員の言われる通りである。そのために、本日の現地視察で市内の各所にある候補地の見学を行った。

(百武委員)

やはり、施設の分散化は重要である。例えば、1)から4)までの項目で評価し点数を出し、候補地を絞った上で分散化について組み合わせによって点数付けし、どのような組み合わせが最適か検討してみたい。

かどうか。分散化の項目は他の項目と同列には評価が出来ない。

(大谷委員)

資源ごみ処理施設の候補地は色々あるので、再度考えてみてはどうか。

(松波部会長)

百武委員から提案があったが、候補地が決まっていなくて分散化の度合いについて評価ができないので、施設の分散化について項目には追加するものの、評価のプロセス上後に回すのはどうだろうか。他の評価項目によって候補地をある程度絞り、絞られた候補地の組み合わせによって評価するという事である。

(事務局)

ご意見の主旨は了解した。その主旨を踏まえもう少し考えたいと思う。考えた結果をふまえ再度提案したいと思う。

【環境保全活動や農業が行われている場所の評価、特定の場所の評価について】

(百武委員)

本日、候補地の現地視察を行ったが、候補地によっては緑地があるだけでなく、緑地内でNPO等が活動をしている場所と活動していない場所があった。したがって、緑地（自然）等の有無だけでなく、NPOの環境保全活動、農作業等の人の活動の有無等を評価する項目を加えてはどうか。

(松波部会長)

賛成である。候補地内または候補地周辺でNPOが環境保全の活動に努めていたり、農業を営まれている方がいたりしたので考慮する必要があると考えている。しかし、どの評価項目に入るだろうか。

(百武委員)

環境の評価項目に入るだろう。

(松波部会長)

では、環境の評価項目に、環境保全の有無のような項目が新たに入ることになるだろう。

(事務局)

NPO等の活動の内容を判断し、点数化するのは難しい。農作業の話が先ほど出たが、市有地の場合市の土地を借りて活動をしているため、その土地で市が活動を行う場合は別の場所に移って活動をしてもらうことになる。また、環境保全活動についても、現在行っている場所、まだ行われていないが今後そのようなことをしていく話がある場所にどのような点数づけをするのか。そのようなことを考慮した場合に、点数の基準が難しいのではないかと。

(松波部会長)

NPOの活動は緑地の保全に繋がるので、緑地等の保全の項目に入るだろう。農業活動については、その土地を使って生計を立てることに繋がるので緑地等の保全の項目に入れるのは難しいのではないかと。

(百武委員)

緑地等の保全は、緑地保全に指定された場所であって、緑地保全活動が行われている場所というわけではない。活動が行われている場所は市民にとって愛着がこもっている場所になっているのではないかと。

(松波部会長)

農地を憩いの場として活用している事や、生計を立てている場所として活用している事を評価項目に入れてもよいのではないかと。しかし、農業活動が緑地保全に繋がっているという判断をするのは難しく、農業活動で生計を立てている場合があるので、評価の対象に入れることは難しいと思う。

(事務局)

農業活動、NPOによる環境保全活動といったものを評価に入れるという解釈でよいか。

(松波部会長)

農業活動を緑地等の保全と考えた委員は、評価の重み付けを行う際に、そこに重点をおいた配点にすればよいと思う。それでは、各委員の価値観で各評価項目の点数づけを行ってもらおう。また、評価項目の内容等でおかしいと思う箇所があれば、意見を出してもらおう。

(稲木委員)

現地調査を行ったときの各候補地の感想や意見交換を行う機会はないのか。意見交換を行わないと現地視察を活かした評価ができないのではないかと。誰が見ても評価がしにくい、この場所を候補地にするのは困難だという場所が各自あったのではないかと。

(松波部会長)

議論の進め方が変わってしまう。我々がしようとしていることは客観的に候補地を絞り込むということであり、誰もが納得できる評価項目を提示し、その中で重み付けをしていくということである。したがって、特定の候補地に関して議論を始めてしまうと評価の客観性がなくなってしまう。それは避けなければならない。ある特定の候補地がよいと思うのであれば、なぜよいのかという要素を評価項目に反映させていただきたい。

(百武委員)

特定の候補地に関して議論を始めてしまうと、今まで検討してきたことの意味がなくなる。今日現地視察をして得られた視点を評価項目の重み付けに反映させていただきたい。

(松波部会長)

あくまでも客観性が大事なので、それぞれの評価項目の重み付けをする。

(大谷委員)

候補地の緑地では、NPOの団体には一生懸命活動している方はいる。しかし、NPO等の団体もいつまで活動を続けられるか分からない。それは農家も同様である。したがって、いつまで緑地の保全活動や農業の継続ができるか課題である。

5. 建設候補地選定 三次選定の評価項目の配点の検討

(事務局)

ワークショップ形式(協働作業の中で方向性を見出すやり方)で評価項目の重み付けを行っていただきたい。

各委員に、小項目の数に対応したシールを配布する。それが各委員の持ち点となる。そのシールを各委員が重視する小項目の欄に貼っていただき、各小項目に点数を配分する。同じ欄に何枚貼っていただいても構わない。そしてシールを貼り終えたら、各委員からなぜそのような重み付けを行ったのか理由を述べていただく。そしてそれを受けて委員に考え直し、貼り直しを行っていただき、最終確定させる。

評価項目の数を決定した上で、配点を決めていただきたい。

(松波部会長)

小項目の数で大項目の配点が決まってしまうと、評価の公平性が失われてしまう可能性がある。一度、委員の方々に各評価項目の重み付けをしてもらうのはどうか。今回の部会では、各評価項目の配点は決定せず、重要度まで決定する方向で進めるのはどうか。

【熱回収施設の重み付けに関するワークショップ】

<補足説明>

各評価項目の重み付けを決める作業を行うにあたり、各委員にシールを配布し、重要だと考える評価項目の欄にシールを貼る作業を行っていただいた。その結果、以下のようになった。(敬称略)

評価項目		松波	佐藤 (臣)	百武	稲木	大谷	高木	富岡
1)機能 ／維持 管理	①-1 敷地の形状	◎	◎	◎◎	◎◎		◎◎	◎◎
	①-2 地盤状況等	◎				◎	◎	◎
	②開発行為や建築行為に対する規制等	◎	◎	◎◎	◎	◎◎	◎	
	③収集運搬の効率	◎	◎	◎	◎◎	◎◎	◎	◎
2)環境	①緑地等の保全	◎	◎◎	◎◎◎	◎◎	◎	◎	◎◎◎
	②水源地の保全	◎		◎◎	◎	◎	◎	◎◎
	③希少動植物の保全・配慮	◎	◎		◎		◎	◎
	④周辺道路の整備状況	◎	◎◎	◎	◎◎	◎	◎	◎◎
3)土地 利用	①教育・福祉施設等への配慮	◎	◎		◎	◎◎	◎	
	②類似施設の状況	◎		◎		◎		
	③地域住民の居住状況	◎	◎◎		◎◎	◎	◎◎	◎
	④市境からの距離	◎						
4)経済 性	①用地取得費	◎	◎	◎◎	◎	◎	◎	◎
	②初期整備費	◎	◎	◎◎		◎	◎	◎
	③ライフライン整備費	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5)余熱 等利用	①熱利用施設等の有無	◎	◎◎		◎	◎	◎	◎
	②バイオガス利用施設の有無	◎	◎	◎	◎	◎◎	◎	◎
	③バス拠点等の有無	◎	◎				◎	
合計		18	18	18	18	18	18	18

<補足説明>

以下、各委員から重み付けの考え方について述べていただいた。

(松波部会長)

配点については、全ての評価項目が平等になる方がよいと考えている。したがって、全ての評価項目が同じ点数になるように配点することを想定して評価した。

(佐藤委員)

緑の保全、施設周辺の道路状況、施設周辺の地域住民の居住状況、熱回収施設の利用のあり方を重視した方がよいと考えている。現段階では、各評価項目に対する具体的な配点は考えてはいない。

(百武委員)

実現可能性、経済性、環境を重視した方がよいと考えている。また、緑地の保全と希少動物に関する評価項目と、経済性に関する細かな評価項目はそれぞれ1つの評価項目にまとめてよいと考えている。

(稲木委員)

敷地の形状、収集運搬の効率、緑地の保全、施設周辺の道路状況、施設周辺の地域住民の居住状況を重視している。施設から市境までの距離の評価項目は重要ではないから、点数を入れなくてよいと考えている。シールの量に比例し点数が高いという意味で評価している。

(大谷委員)

施設周辺の道路状況、施設周辺の地域住民の居住状況、用地買収取得費（経済性）、熱回収施設の位置が重要な評価項目だと考えている。今の技術なら敷地の形状は問題ないと考えている。また、シールの量に比例し点数が高いという意味で評価している。

(高木委員)

全般的に同じ評価をしている。施設周辺の地域住民の居住状況等の問題に重みをおいて評価する必要があると考えている。シールの量に比例し点数が高いという意味で評価している。

(富岡委員)

敷地の形状、緑の保全等の環境へ配慮が重要だと考えている。また、施設周辺の道路状況に関連して道路の幅員等の問題、施設周辺の地域住民の居住状況に関連して地域住民の思い等を重視する必要があると考えている。最も重要なのは環境保全だと考えている。シールの量に比例し点数が高いという意味で評価している。

(事務局)

施設から市境までの距離は松波部会長以外、どの委員も重視していない結果となった。現時点で、他の委員に対して、意見の確認や他の委員の意見を聞いて自身の意見が変わった方はいるだろうか。

(大谷委員)

今回検討している施設の規模では、狸等の動物は減らないと考えている。したがって、希少動物については考えなくてよいのではないかと考えている。

(事務局)

希少動物に該当するのは絶滅危惧種等であるため、狸は希少動物には該当しない。

(百武委員)

希少動物と緑地の保全の評価項目は分ける意味がよく分からない。一緒によいのではないかと考えている。また、経済性の評価項目の中の詳細な評価項目の違いが分かり辛いから、どの委員も同じような配点を考えているのではないかと考えている。そのような評価項目は1つに統合した方がよいのではないかと考えている。

(松波部会長)

各評価項目に点数を分配するのではなく、まずは各評価項目の点数を決めてから、配点を行うやり方が正確な点数が出ると思う。参考としてやってもらいたい方法として、各評価項目の内容、意味を事務局側に説明してもらい配点する。そうすると、より明確な配点ができるのではないかと考えている。

(稲木委員)

改めて思うが、収集運搬の効率が重要だと考えている。例えば、熱回収施設等を市の東西両極端に設置すると効率が悪くなりコストが高くなる。そうすると市の中心に設置した方が効率は良くなるのが考えられる。これらを考慮して収集運搬の効率を重要視したいと考えている。

(松波部会長)

今回の部会では、配点は決められないと考えている。大項目と小項目を別々に配点について考えていくのはどうだろうか。

(事務局)

全ての評価項目が均等になるように配点するやり方が松波部会長の考え方であり、シールの量に比例し配点を高くするやり方が他の委員の方々の考え方となっている。

(松波部会長)

各評価項目の点数の配分に差が生まれている。それをなくすために、全ての評価項目に同じ数のシールを貼って評価した。事務局側が考えた方法では、あらかじめ、各評価項目の重み付けがされているため公平な評価が出来なくなるのではないか。

(百武委員)

大項目（5項目）だけにシールを貼り、各評価項目の重み付けを決めていくのはどうか。

(松波部会長)

では、100点を各評価項目に分配（配点）して重み付けをするのはどうか。本日は大項目の5つの評価項目の配点を決定するところまで決めてはどうか。

(事務局)

それでは、各委員に5つの大項目に点数（100点満点）を分配する作業を行っていただく。

<補足説明>

各委員から100点満点とした場合の各大項目の点数を述べていただいた。その結果、以下のようなった。（敬称略）

評価項目	松波	佐藤(臣)	百武	稲木	大谷	高木	富岡
1)機能／維持管理	20	20	25	20	30	25	25
2)環境	20	30	25	30	20	20	25
3)土地利用	20	30	10	20	20	15	20
4)経済性	20	10	25	20	20	25	20
5)余熱等利用	20	10	15	10	10	15	10
合計	100	100	100	100	100	100	100

〔資源ごみ処理施設の重み付けに関するワークショップ〕

＜補足説明＞

小項目の重み付けのため、各委員にシールを配布し、熱回収施設等の場合と同様の作業を行っていただいた。その結果、以下ようになった。（敬称略）

評価項目		松波	佐藤 (臣)	百武	稲木	大谷	高木	富岡
1)機能 ／維持 管理	①-1 敷地の形状	◎	◎	◎◎	◎◎	◎	◎	◎◎
	①-2 地盤状況等	◎			◎		◎	◎
	②開発行為や建築行為に対する規制等	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	③収集運搬の効率	◎	◎	◎	◎◎	◎◎	◎	
2)環境	①緑地等の保全	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎◎
	②水源地の保全	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎◎
	③希少動植物の保全・配慮	◎	◎	◎	◎		◎	◎
	④周辺道路の整備状況	◎	◎◎	◎	◎	◎◎	◎	◎◎
3)土地 利用	①教育・福祉施設等への配慮	◎	◎		◎	◎◎	◎	
	②類似施設の状況	◎	◎	◎	◎		◎	
	③地域住民の居住状況	◎	◎◎		◎◎	◎	◎◎	◎
	④市境からの距離	◎						
4)経済 性	①用地取得費	◎	◎	◎◎	◎	◎	◎	◎
	②初期整備費	◎	◎	◎◎		◎	◎	◎
	③ライフライン整備費	◎	◎	◎		◎	◎	◎
6)施設 の分散 化	①熱利用施設等からの距離	◎	◎	◎		◎	◎	◎
	②資源化施設同士の距離	◎	◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎	◎◎
合計		17	17	17	17	17	17	17

(事務局)

資源ごみ処理施設についても、熱回収施設と同じ考え方でよいだろうか。ここで、各委員に各評価項目の重み付けの理由について簡単に説明していただく。

(松波部会長)

熱回収施設と全く同じ考え方で評価した。

(佐藤委員)

環境、土地利用を重視して考えた。

(百武委員)

資源化施設同士の距離は分散化という観点で意味があるため、多く配点した

(稲木委員)

資源化施設同士の分散化に多く配点した。

(大谷委員)

収集運搬の効率、施設の分散化を重視しておけばよかったと考えている。熱回収施設からの距離の点数を施設の分散化に配点する方向でいく。

(高木委員)

施設から市境までの距離はいらないと考えている。

(富岡委員)

施設の分散化を重視している。

(松波部会長)

資源ごみ回収施設についても、熱回収施設と同じように重み付けの作業を行う。

<補足説明>

各委員から100点満点とした場合の各大項目の点数を述べていただいた。その結果、以下のようになった。(敬称略)

評価項目	松波	佐藤(臣)	百武	稲木	大谷	高木	富岡
1)機能／維持管理	20	25	25	20	20	20	-
2)環境	20	25	25	20	20	25	-
3)土地利用	20	15	5	20	15	15	-
4)経済性	20	15	25	10	15	20	-
6)分散化	20	20	20	30	30	20	-
合計	100	100	100	100	100	100	-

※富岡委員は途中で退席された。

(松波部会長)

今回の部会は、ここまでとし、集計結果を次回の部会で提示していただく。

6. 事務連絡

(事務局)

整備基本計画専門部会では、バイオガス化施設の実働施設の見学を行った方がよいのではないかという意見があがったが、本部会ではどうするか。見学場所は京都のカンポリサイクルプラザとなる。予算については、検討段階ではあるが、予算が下り次第、見学可能となれば後日連絡する。

(事務局)

意見書については、次回の部会で意見があれば意見を出していただきたいと考えている。また、Q&Aについては、6月25日までに事務局までに意見、提案等をしていただく。

(松波部会長)

次回は副部会長を決定しなければならないので、各委員考えてきていただきたい。

次回の候補地選定専門部会 6月28日 13:30~15:30 まちだ中央公民館ホール 町田センタービル7階

第10回検討委員会 7月6日 15:30~17:30 町田リサイクル文化センター研修室

本日欠席した委員については、後日事務局が評価項目の重み付けの点数と考え方について確認する。

7. 閉会